

◆ 今週のコメント

- ・ ウイルス性肝炎のC型(第6週)及びB型(第7週)の報告が、各1例あります。平成11年～20年の年報告数は、B型が1例～9例、C型が0例～4例です。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は10.22(695例)で、第4週(1月19日～1月25日)(27.51)のピーク以降、減少しています。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、5.66です。年齢階級別割合では、1歳が最も多く16.8%で、0歳～5歳で57.8%を占めています。

◆ 今週のトピックス: <平成20年の後天性免疫不全症候群のまとめ>

- ・ 平成20年の報告数は、エイズ患者6例、HIV感染者15例、計21例です。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 五類: ウイルス性肝炎(B型, C型) 2例【1月以降の累積報告数 2例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	10.22	695
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.66	232
	② 水痘	0.68	28
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.59	24
	④ 突発性発しん	0.22	9
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.10	4
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <平成20年の後天性免疫不全症候群のまとめ>

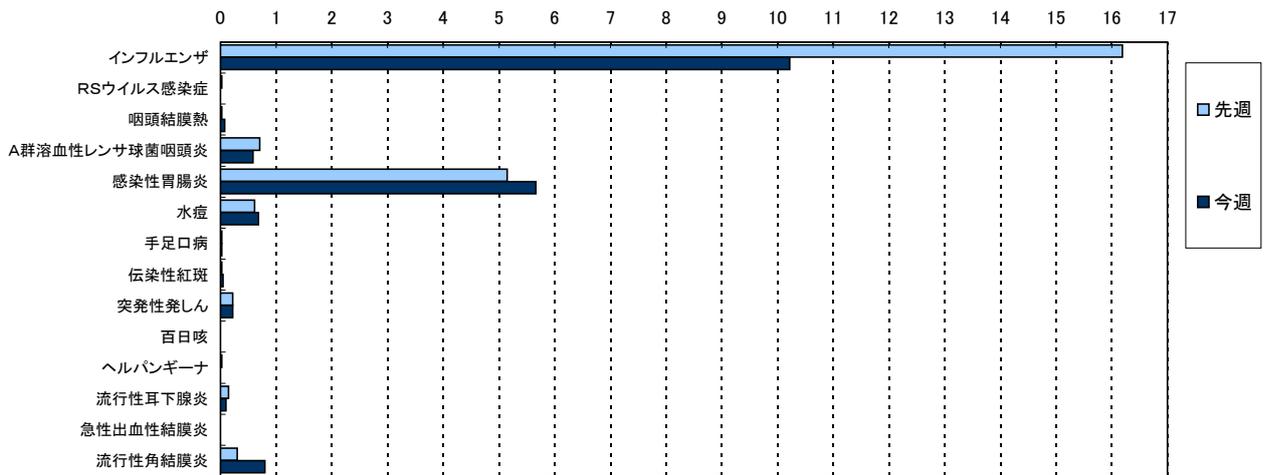
(注) 京都市のデータは、平成21年2月26日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

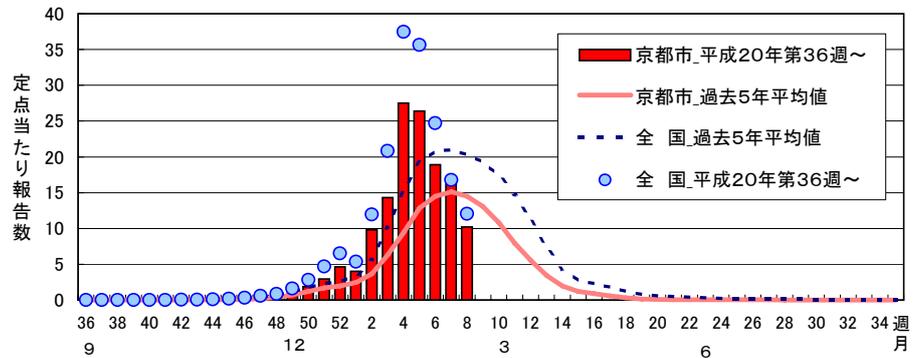
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第8週)と先週(第7週)の定点当たり報告数の比較



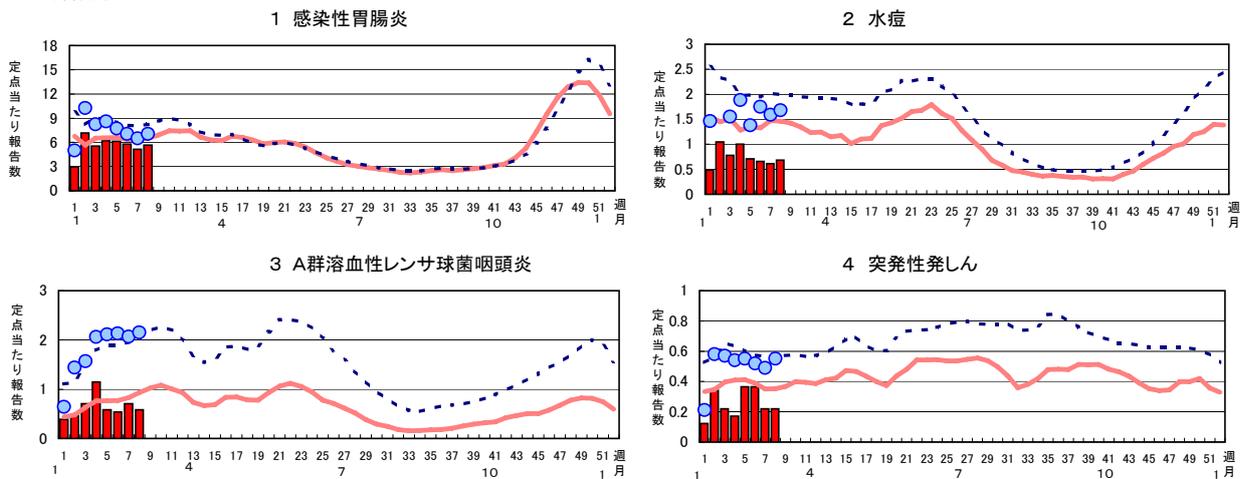
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第4週	1871
第5週	1796
第6週	1285
第7週	1101
第8週	695
累積報告数 (第36週以降)	9429

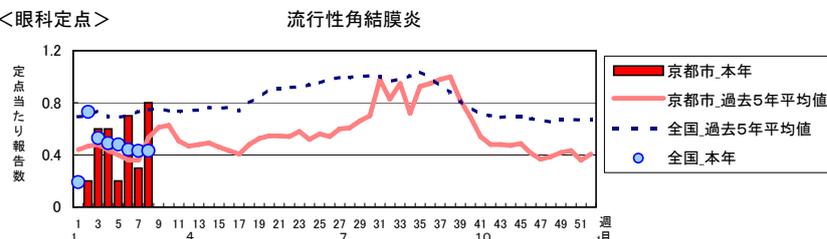


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



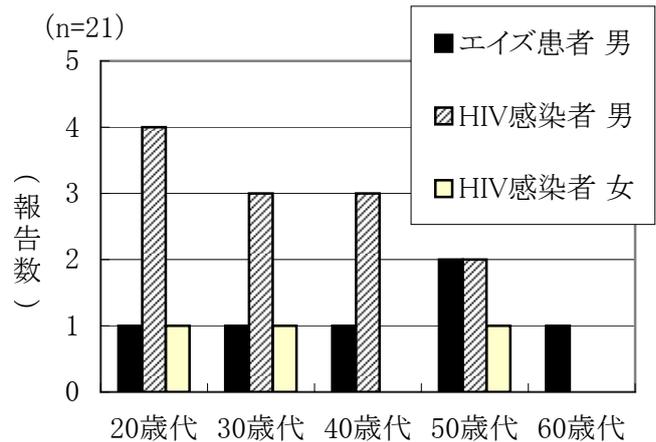
今週(第8週)のトピックス: <平成20年の後天性免疫不全症候群のまとめ>

平成20年の報告数は、エイズ患者6例、HIV感染者15例、計21例です。
 平成11年以降の年次別報告数では、平成20年は、3番目に多くなっており、平成18年以降多い状態が続いています。
 年齢階級別では、HIV感染者の20歳代男性(4例)が最も多くなっています。
 推定感染経路では、性行為感染(同性間)が最も多くなっています。また年次別にみても、近年、性行為感染(同性間)が多くなっています。

年次別報告数の推移

報告年	エイズ患者	HIV感染者	合計
平成11年	2	3	5
平成12年	3	3	6
平成13年	2	4	6
平成14年	4	5	9
平成15年	2	9	11
平成16年	2	19	21
平成17年	3	6	9
平成18年	8	17	25
平成19年	7	15	22
平成20年	6	15	21
報告数合計	39	96	135

性別年齢階級別報告数(平成20年)



平成20年の詳細(性別, 推定感染地域別, 推定感染経路別)

		京都市(n=21)			
		エイズ患者		HIV感染者	
		男	女	男	女
推定感染地域	国内	4	-	12	2
	国外	2(不明)	-	0	1(タイ)
推定感染経路	性行為(異性間)	2	-	1	2
	性行為(同性間)	3	-	7	-
	性行為(異性間及び同性間)	1	-	0	-
	静注薬物使用	0	-	0	1
	不明	0	-	4	-

性行為感染別年次別報告数

